
約束の唄～茜色の歌詞～

藤森優斗

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

約束の唄（茜色の歌詞）

【Nコード】

N7827E

【作者名】

藤森優斗

【あらすじ】

歌詞集の第2弾。物語とはまた違う言葉の深さ。短い文章でも、それは、心の奥底まで届いてくれる。喜怒哀楽の人生にどんな意味があるのか。それは人間が解明できない最大の謎。それでも、詩は証明してくれる。頼りない頼りになるモノ。

スケッチブック

手持ちのスケッチブック

産まれた時から離さず持参

あれこれ描いてきたモノは ちゃんと額に入れて飾ってる

色染み付いたパレット

もう こんなに汚れ付いたな

擦って 擦って 落としても 結局 また気付けば汚れた

同じ色は無かったよ

同じ景色を見ていても 見えていたモノは違ったから

まだ 描き足りないよ

何冊目のスケッチブック？ 君はどの絵が気に入ったの？

さあ 何 描こうか 白から黒 どの色使ってもいいよ

君が見たその景色を思い出のキャンパスに描こうか

じゃあ 僕からにしよう 持参したよ 心のスケッチブック

その茜空と並んだ君の姿を いろんな色で描くよ

呆れた色塗り作業

きつと これにも疲れたよ

色々選んで決めるのにさ 未来も命も懸かるなんて

選んだ色は良かったよ

綺麗で本当に良いけど それが何か違ったかな……

もう 紙は真っ白だよ

何処行ったっけパレット そういや あれもか スケッチブック

ああ どうしよう 過去から今 何処に汚れが付いたかな
僕が生きてきた景色を 何処で描き間違えたかな
だから そうしようか 塗り潰すよ 今までのスケッチブック
あの茜色だって その時しか知らない色だったしね

どの色使っても良いんだよ

君が見たモノ 全部 スケッチしとかなきゃ

嫌いな 好きな モノ全部

スケッチブックに閉じ込めて

さあ もう描こうか 白から黒 どの色使ってもいいよ

君が見たモノ全部を思い出にスケッチしよう

もう そうしなきゃね 閉じ込めるよ 人生のスケッチブック
今まで生きてきた僕をそこに閉じ込めるよ

僕のスケッチブック
心のスケッチブック

カオス・クロス

寂れたビルの隙間 切り取った空
繰り返す同じ日常 くだらないだけ

血飛沫舞うアスファルト 染め上がる赤
何の意味があるの？ 解らないまま

こっちおいで おいで
連れ去られる準備はいい？

騙し 騙されて
信じるモノもない異世界

助けて……

何も見えない 静寂の中 迷いの薬物 起こる副作用
血に染まる 赤い十字架 心臓に刺して
解き明かせない 未知の謎 助けの手は 届きはしない

汚れた人の生き場 切り裂かれる「イマ」
迷うばかりの日常 血塗れの「過去」

指切りげんまん
針飲ます偽りの嘘
追い付き 追われる

決して逃げ切れない鬼ごっこ

もう嫌……

誰も知らない 血溜まりの中 誓いの薬物 繰り返す副作用
此処に刺す カオスクロス 目印の飛沫
解き明かせない 謎のパズル 救いの声は 響きはしない

何の為に繰り返す悲劇なの？
何の為に切り裂く静寂なの？

こっちおいで おいで
差し出す手に導かれて
こっちおいで おいで
逃げ出す場所のない異世界

助けて……助けてよ……

誰も知らない 怪奇現象 誰も知らない 危険エリア
誰も知らない 誰も知らない……

誰も見れない 血溜まりの中 自殺の薬物 罪滅ぼす副作用
心刺す カオスクロス 血の息を止めて
解き明かせない 謎のパズル 呪いの手と手 裏切りあって

誰も知らない 怪奇現象
誰も知らない 怪奇現象
誰も知らない 怪奇現象
誰も知らない 怪奇現象

クリスタル

産まれてこの時まで 「死にたい」とは思わなかった
嫌な事ばかりでもなかった 嫌な時は本当に嫌だけど
何もかも思い違い 死にたい時こそ 死ねずにいる
何を幸せと決めるか 分からなくて また嫌になる

間違っちゃいないさ 選んだ事は
ただ 結果が違うだけ それだけの事
分かつちゃいるけど……

汚れたって構わない 汚れない人はいないから
それは ただ 自分を磨く為

それだけの事だから
必要な程 その身だけは大切にしなくちゃ
思うより 君のハートは腐っちゃいないから

また繰り返す同じ日常 つまらなくて 嫌になって
それでも時々笑顔でいる それだけは嘘じゃなかった
何の為に此処にいるか 分からなくて 嫌になって
それでもまだ生きている 涙よりも笑顔の方が多い

躓いちゃいないさ 上手くいってる
でも 逆様に見ると 足跡の側に
深くへっこんだ手形

「別に死んでも構わない どうせ後で死ぬから」
その事を 分かっているなら
今は死ぬなよ

思い通り 後で死ぬから それまでは生きよう
嫌な時程 死ぬ時を考えて それまでは生きよう

間違えてはいないさ 産まれた事 間違えではない
好き嫌いあっていいさ 生きてる事 好きになろう

産まれたんだから 折角だし 死ぬまで生きよう
それだけでもいいから

汚れたって構わない 汚れない人はいないから
それは ただ 世界を愛した

その証拠だから
嫌な時程 その命は大切にしよう
思うより この世界は汚れてはいないから

それも ただ 死ぬまでの事
それだけの事だから

青春謳歌

桃色の桜が咲く 涙と共にするように静かに落ちていく
「これから宜しくね」って 交わした三年前
それから 時は流れて 「もう、お別れだね」

いろんな事があったよ 思い出になる思い出だったよ
「貴方が好きです」って 告げた三年前
それから 時は流れて 「今までありがとう」

何も変わらない それも悪くない
それだけ青春を謳歌してる
何も変わらない 何も変わらない
本当だろうか 「離れ離れ……」

桜散る 思い出の場所 溜め込んだ想いも一緒に
風に乗せて 運んでよ
僕等の青春謳歌

桜の木が立つ校庭 懐かしくてその香りを確かめる
「よう、久し振り」って 言葉を交わしたイマ
それでも昔が今の様 「昨日も会ったな」的

悲しくない それは嬉しい
久し振りには勝てないや
ああ懐かしい ああ懐かしい
何年前だ? 「また会おう」

桜咲く 桃色の場所 伝えたい言葉も一緒に

散っちゃう前に 咲かせてよ
僕等の青春の日々を

咲かせて 咲かせて あ頃の想いを
会いたい 会いたい イマは思うよ
出会えたから 別れがある
別れがあるから 出会いがある

久し振り それも悪くない
それだけ青春を謳歌した
何も変わらない 何も変わらない
本当だったよ 「それぞれのイマ」

桜咲く 桃色の場所 溜め込んだ想いも一緒に
声に乗せて 運んでよ
出会った君の元へ

分かれても 「ありがとう」
出会えたから 「ありがとう」

ロンリーガール

その扉の中を見るのは もう少し後の方が良い
今見る必要はないから だからノックも今はやめて

ずっと思ってきた事 「もう嫌だし、死のうか」

それで毎晩泣いてきた それも君だけじゃないはず

本当は固い扉だよ

それでも神はドアノブ付けた

いつかは中に入るように

ロンリーガール

その首を絞めるのは いつだって『想い』の思い違い

ロンリーガール

手首に付けた傷 それ見れば世界なんて小さいモノ

誰にも言わない夜 それには言えない理由がある

その時泣いていた事 相談も無しに苦しんだ事

本当に固い絆だよ

君が築いてきた友情は

死ぬ必要なんてない程に

ロンリーガール

「まだ大丈夫……」 いつだってそれで乗り越えた

ロンリーガール

涙も出飽きた 「他の出番もほしいな」 って

その扉開ければ 誰も知らない世界
見てみたい 見たくもない
その扉閉じれば 誰もが知ってる世界
戻りたくて 戻りたくなくて

本当に固い扉だよ

そのドアノブさえ無ければ
二度と死に向き合わない

ロンリーガール

その扉を開けるのは 君の意志より神の思い違い

ロンリーガール

その時が来るまでは ただ「生きる」って事だろう

ロンリーガール

誰も一人じゃない 何かと面倒見る奴もいる

ロンリーガール

君も一人じゃない この唄が君を温めるから

ロンリー ロンリー ロンリー……

いつかは扉をノックしよう

ロンリー ロンリー ロンリー……

その時までは、まず生きよう

ロスホープ

例えば その涙を止める事が出来たら

遠くに居る僕の姿も確かに見えるかなあ

とても 大きな夢を誰か一つは持ってたんだ

その仮 四六時中 何かに夢中でたまに泣いてる

遠く消えた物があつたっけな そいつをどうにか思い出して
無謀な勇気が生まれる そのときつと誰でもこう思うんだ

「怖い物が在ったら 勝てない物が在ったら……」

そんな不安を思つてやるなら

叶うはず無い夢でも見ていたほうが増しさ

そして それから僕等は誰かを見て形を知った

自分を模る物が何かって少しは気付いたろう

とても 小さな勇気でも振り絞れば希望に変わるだろう

その後 四苦八苦 して何かを掴んだ喜びと出会う

いつか探してた物があつたかな 一体いつ諦めたの？

叶うはず無い夢でも ほら 叶えようとすれば良い

「出来ない事があつたら 会えない時があつたら……」

そんな物事を心配するなら

あるはずない物を探して彷徨う方が増しさ

消えたモノはいつも掌の中

探した物はいつか此処に在った

遠く消えた悲しみ 探した喜びの方程式のように

探せば思い出した 幸せのモノ

ロスホープ 失くした希望 ただ自信が無いだけ
ロスホープ 探した希望 もともとその身の中にある

「見えない物が在ったら 知らない物があつたら……」
それも全部 希望の欠片
育てば見た事もない勇氣に変わるだろう

僕等 気付けばいろんな何かを鞆に積んでいた
僕等 気付けば無くしたからこそ 何かを貰った

ゴールテープ

ある暗闇の中 迷い込んだのは その必要があったから
走って 走って 出口探しても
ゴールはまだまだ遠いよ

ある意味光の中 迷い込んだからこそ 正解を掴んだから
もつと もつと 出口を探して
ゴールはいつも近くにあるよ

ただ それは人生の寄り道
これほどに路草が大事だなんて
ガキの頃には分からないよ

「よいい ドン」で走り出して
そのゴールテープを切ろう

「死」というゴールを
それまでは走ろう 止まる事の無いように
精一杯の疾走で……

あの頃は夢中 右も左も在るモノ全部 希望に見えたりも
ずっと ずっと それは一緒
ゴール手前は右往左往だけど

だが それも人生の幸福論
「これでもか」って悩みに悩んだ涙の分
産まれた笑顔は秘宝だよ

「ハイ、チーズ」の記念写真

最後まで持っていよう
その思い出を

死ぬまで持っていよう 忘れる事の無いように
生きていた証拠に……

ただのゴールじゃないよ
全てを終えるゴールだよ

ただの笑顔じゃないよ
天然記念物の笑顔だよ

でも それは世界の箒星
いつも輝いている僕等は疾走する
終わりある人生の中で

何も無い 人生など無い
死ぬまでは生きよう
悔いの無いように

その為に悩もう 二度と無いこの人生だから
精一杯の疾走で……

「よいい ドン」で走り出して
そのゴールテープを切ろう

「死」というゴールを
それまで ただ 生きよう 忘れる事の無いように
精一杯の人生を……

名のない言葉

言葉だけじゃ伝わりきらない

精一杯 声かけるけど 全部伝わっちゃくれないよ

想いが増す程に辛くなる

幸福論 唱えてみるけど 幸せ自体に気付かない

それは全部 君に貰ったよ

返せる分が無い程に

君の大切な人は僕

僕の大切な人は君

大切なモノの裏切り合い

それは幸せの延長線

何も言えない程の出逢いがあって

金輪際 こんな出逢い もう望みはしないよ

何も言えない程に想いがあって

今世紀 最大限の想いは 今ココにある

だって 君と出逢えたから

この想いだけは一つでいい

君が大切にするように

僕も大切に想っている

互いが一番の宝物

それは悪くはない事

君が僕を大切にする 僕は君を大切にする

命を懸けても 良いと思つた

でも 君が僕を大切に思うから この命は大切にしないと
お互い 命は懸けられない お互い 守らないといけない

何を理由にしようたつて この出逢いにだけは敵わない

金輪際 君以外にこんな想いの出逢いは必要無い

何を幸せにするかなんて この出逢いの後には関係ない

精一杯 君を守るよ この想いが壊れないように 大切にするよ

君の大切な人は僕

僕の大切な人は君

だから二人一つにすれば

この「想い」が一番の宝物

君が大切だから 僕だ大切だから

何が幸せだろうって それは勿論 生きている事

君が大切だから 僕が大切だから

何が幸せだろうって それは勿論 お互いが居る事

ステレオロックレインボー

何かを欲しくて 意味の無い事もした

ホースで思いつきり水撒いて 小さな虹を作ったり

何かを見たくて 意味の無い事もした

レンズ越しのブルースカイ 覗いて目を光らせたり

高音質 ステレオ音 世界になんて聴こえやしない

ロックの無い世界なら 何も壊れやしない

スターダスト カシオペヤも何で

世界の誰にも見えてます

だからって 自分のモノには何時になってもならないって
スポットライトみたいに

胸一杯に精一杯を本当に出しているなら

ブレイブとかブレイバー 楽な事だろう

不恰好で無愛想 なら本当に駄目ってどうかな？

きっと 誰も知らない スーパーノヴァ

それでも世界は手に入らねえよ 「残念……」

誰かに見られて 怖じ気付いたりした

迷路のような人生ゲーム イベントマスは何処？

誰かに言われて 怖じ気付いたりした

恐怖の心霊ホラー映画 笑える点は何処？

高機動型 パイロット 世界は容易く救えやしない

ミサイル打って解決なんて 解決する気すらない

スライドショー スタンディングオベーション

世界の誰でも大喝采です

そんなくらい 人生ゲームを華華しくしてやり過ごせたって
ドッキリテレビみたいだ

何光年の何番星 でもこの世界のイメージは
何カラットより キラッと 光る闇だろう
不器用で無礼講 そんな汚れだってあるよ
でも 誰もが生きてきた 世界の中
それだから何より輝かしいよ 「どう思う？」

スイッチ入った カセットレコーダー
低音質 モノクロ質 綺麗な曲が流れてるんだ
その音が響かないくらい うるさい世の中ばっか
リピート機能みたいに

胸一杯の精一杯で本当に生きているのなら
スポットライトもステージも 誰ものモノだろう
不恰好で無愛想 その姿でも良いから
ああ 誰もがつけてきた ヘッドホン
それなら何もかも聴こえるよ 「サンキュー」

生きる音聴く為のヘッドホン
世界の音聴く為のヘッドホン

Break Joker

日常スケジュール 難易度 レベル5

それでも 人生はそう簡単に辞められないもんだよ
泣いて 泣いて 泣いて

だからって 僕等は欠かさず毎日 スマイル

感情コントロール 完成度 最低

それだから 想いはカクレンボ並みに隠せんモノだよ
見つけて 見つけて 見つけて

いつもだよ 窮屈だからって叫ぶ 素直に

天使か悪魔 手を結ぶなら迷わず悪魔

イイ子にする程 疲れるから

天国か地獄 選ぶなら迷わず天国

悪い事する程 疲れるから

それもそう 辛いのは勘弁

選択肢ばかりのクイズ にっちもさっちもいかねえよ

「すみません…」 厳しいのも勘弁

バカバカし過ぎるイタズラ 後でバレるって 「観念しろ」

目標ステータス 達成前 「残念…」

そんなに 簡単にやり遂げる目標なんて笑いモンだよ

精一杯 精一杯 精一杯

それだから 達成感にメダル付き スゲェよ

アタリかハズレ 選べるなら正直アタリ

「努力を無しに掴めるなら」

結果が全て ご褒美なら正直者に
ハッタリの努力 バレるって

それもそう メンタルの観察

精神衛生上ブルーレイ 綺麗すぎて見てらんねえよ

卒がない ストレスの監獄

ダラダラしてない方が 逆に疲れるなんて 分かんねえ……

精神的なSOS フラグ立ててよ

無視しないで 無視しないで 無論 気付いて

幸福論のDVD 上映辞めて

見てないでよ 見てないでよ みんな リアルを見てよ

それもそう 辛いのは勘弁

選択肢ばかりの迷路 あっちもこっちも苦劳かよ

それもそう 厳しいのも勘弁

誰だってシナリオライター 人生書いてる 「完成しよう」

それはそう 評価が肝心

苦劳薙ぎ倒すボーリングボール 右も左も訳分かんねえよ

それはそう フリーダムライフ

バカバカしいイタズラ 後に結果は出るって 「観念しろ！」

勘弁ですって

何だかんだで 最後は観念しろよ

銀河鉄道で逢えたなら

「夢の中で逢えたら 君を連れて行くよ
星空を駆けて行く 銀河鉄道に……」

何年もの時を越えたら 一度は此处で光るよ
星空はいつもそう 時間差の恋

恋焦がれて 瞼を閉じて 夢の中
カシオペヤ輝く星空の下で 今日も眠ろう
機会逃して 涙を流して 朝の中
カシオペヤ輝く星空の下で 「今日こそは……」と

望遠鏡を覗いたら 君に知らせに行くよ
夜道を駆け抜けて 新しい正座を

流れ星見つけたら 君に知らせに行くよ
夜道を駆け抜けて 願い事一つ

恋焦がれて 瞼を閉じて 夢の中
カシオペヤ輝く星空の下で 今日も眠ろう
星流して 世界中が 夢の中
流れていく彗星に祈って 「叶います様に……」

「夢の中で逢えたら 君を連れて行くよ
星空を駆けて行く 銀河鉄道に……」

恋焦がれて 瞼を閉じて 夢の中
カシオペヤ輝く星空の下で 今日も眠ろう

星降る夜はいつでも 君を待っているよ

暗闇の夢の中 世界が静かな時に ずっと……

星降る夜はいつでも 夢を持っているよ

星屑の空の下 世界が平和な時に ずっと……

銀河鉄道の夜になったら 君を待っているよ

暗闇の夢の中 世界が静かな時に ずっと……

銀河鉄道の夜になったら 君を待っているよ

星屑の空の下 世界が平和な時に ずっと……

君を想いながら 待っているよ

夢の中 「銀河鉄道で逢えたなら……」

君を想いながら 待っているよ

夢の中 「銀河鉄道で逢えたなら……」

スノーマフラー

冬になったら いつも 思い出す

君が「寒いのは嫌」と愚痴っていた事

生憎 もう 季節は流れて冬

また今年も君は言うかな 僕に愚痴るかな

今になったら 僕も そう思う

子供の頃なら「雪合戦しよう」って言った逆

尚更 知る 季節は流れて冬

銀白の絨毯に付く足跡 今はまだ平行線

スノーマフラー スノーマフラー

寒さのお蔭で体感 君の温もり

スノーマフラー スノーマフラー

足跡を眺めて実感 僕の右隣 愛しい人……

雪が止んだ 今日の黄昏時

君の「やっと止んだね」って喜んだ姿

今頃 「ああ カメラ忘れたよ」

人差し指と親指のフレーム 思い出に閉じ込める

スノーマフラー スノーマフラー

フレームの中に居る君 振り返る姿

スノーマフラー スノーマフラー

ゆっくりと両手を下ろす 「ちよっと、待ってよ!」

……

駆けて行く

冬になったら いつも 思い出す

君が「寒いのは嫌」と愚痴っていた事
どうやら また 今年も聞けるみたいだ
繋いだ左手が震え始める 「もう！ 寒いのは嫌！」

スノーマフラー スノーマフラー……
スノーマフラー スノーマフラー……

寒いからこそ 感じる君の温もり
これさえあれば 冬も悪くはないのかも
寒いからこそ 分かった君の寒がり
これがなければ 分からなかったのかも

冬になったら また 思い出す

君が「寒いのは嫌」と愚痴っていた事

生憎 まだ 季節は留まって冬

銀白の絨毯に付く足跡 平行線の途中に交点

あの坂道を上がったら

ひらり、ひらり 桜舞う 急な坂の道

この坂道を上がったなら 何か変わるかな

そっと 思い返した 昨日と貴方への想い

また今日も無理なのかな いつ上がれるかな

時がチクタク 流れて 変わってしまったイマ

知らない場所じゃないはず 少し眠っていただけ

胸がドキドキ 高鳴って 壊れそうな心

もう あれから季節は一周 貴方は変わったのかな

会いたくて 会いたくて

長い夢の中でも 変わらない貴方に会っていたの

会いたくて 会いたくて

夢から覚めた今でも 変わった貴方に会いたいの

くるり、くるり 目が回る 朦朧とした意識

あの時 貴方の側で倒れていたのなら

ずっと 一緒に居られたのかもしれない

馬鹿だな 私なんかとそんなのないのに

瞳シクシク 泣いて…… 泣いてなんかないのよ

少し壁が大きいだけ それだけの事なんだから

半身ワクワク もしも この坂道を上がったなら

貴方に会えるの それだけはただ嬉しいの

泣きたくて 泣きたくて

流れた一年の隙間で 変わったその場に行けないの

泣きたくて 泣きたくて
何を背押しに決めるか 変わった一年は伊達じゃない

ずっと 寝ていたのよ
貴方の事だけは忘れずに
ずっと 見ていたのよ
貴方の事だけは忘れずに

この坂道を上がったなら 貴方に会えるのかもしれない
それは分かっているの それでも 知らない空白の時間は
私の想いしか残していないわ

会いたいのに……

泣きたくて 泣きたくて
また今日も一歩手前 変われるなら上がれるのに
泣きたくて 泣きたくて
そこに貴方はいるの だから ただ 今はただ……

会いたくて 会いたくて
この坂道を上がったなら 変わらない想いを届けたい
会いたくて 会いたくて
この坂道を上がったなら 変わらない貴方に会いたくて

この坂道を上がろう
そこには貴方が待っている
この坂道を上がろう
そこには貴方が待っている

マリオネット

何も無いと思っていた時 そりゃ誰にだってあるだろう
そんな時に限って 生きている事を 尚更知る

大事な夢が壊れた時 それも誰にだってあるだろう
それだから尚更 生きていく意味を 又もや知る

嫌な訳じゃない 人生 そんなに腐っちゃいない
それなのにさ 「死にたい」なんて愚痴を言うかよ
幸せでもない 結局 幸せなんて分かんない
当たり前だよ 産まれた事以上の幸せは無い
それとも 産まれた以上の不幸はない？

この世界に産まれた意味 「それは？」
この世界で生きている意味 「それは？」
とても 大切な事 それすらも 分らない…… 「嫌だ」

誰かの為になろうって時 決まって感謝は自分のモノ
幸せは自分の為 誰かの為にしたはずなのに

誰かの為に産まれたなら いつかは役に立つだろう
それでもその時 得たモノが多い自分の為

狂った訳じゃない どうか 形を保っている
それもいつまでか 溜め込んだモノは計り知れない
誰かに操られた マリオネットみたいだ
承知の上 完璧な自由なんて孤独なだけ
それでも 只今 孤独主義者 進行中

この世界に必要なら 「いつ？」

この世界で大切なら 「何処が？」

とても 小さな事 それでも生きてく上に必要 ラララ……

誰かの為になりたり

それが自分の為になろうとも

誰かの為になりたり

承知の上 世界の中心は誰だって自分自身

その意志に操られた マリオネット

この世界に産まれた意味 「それは？」

この世界に生きている意味 「それは？」

いつか 死ぬなんて 承知の上 それまでは生きたい ラララ……

T e a r s d r o p

「ねえ 覚えているかい？ 君があの時
人目にせず 涙を流した事」

覚えちゃいないかい？ 僕は今でも覚えているよ
君の悲しむ頬をひたすら 撫でていたからね

それでもさ 君は泣き止んじゃくれないよ
休む事無く頬を撫でるよ 喜んでくれるかな？

そんなに溜めたら重いだろう？ 溜め込むだけなら『想い』だろう？
優しく頬を 丁寧に頬を 撫でてあげる 僕の声が聞こえるかい？

ポロポロ…… ポロポロ……

悲しむ君が流した涙 染みにもならず消えるけど

ポロポロ…… ポロポロ……

流れた涙自身はね 優しい想いで消えるんだよ

戻れはしないよ 過ぎてしまった事にはね
だから 君はまた泣く 懲りずに頬を撫でる

それからさ 愚痴は受け付けないからね

僕を呼んだのは君自身だよ それは分かってくれ

逃げ道ばかりじゃ飽きるだろう？ それにも気付いて焦るだろう？
零れないように しがみ付く 玉手箱から落ちないように

ポロポロ…… ポロポロ……

僕は会いたいけどさ 君はたぶん嫌がるよ

ポロポロ…… ポロポロ……

だから星降る夜の中 君の頬を優しく撫でるよ

承知の上 君が嫌がるなんて

それでも僕は 君の為に頬を撫でるよ

承知の上 君が忘れるなんて

それでも僕は 君の為に頬を撫でるよ

何処からかな？ 僕が出てきた発信源

それは君の玉手箱 悲しみばかりの宝石箱

ポロポロ…… ポロポロ……

君の頬を撫でた分 君は更に泣くけどさ

ポロポロ…… ポロポロ……

それは僕の仕業だった 君の側に居たいから

「それじゃあね 此処でお別れだよ」

ずっと涙は知らずにいる 頬を撫で終わった後

君が笑っている事を 涙のお蔭で笑える事を

約束の唄／茜色の空／

茜色の空の下 カラスが鳴いて 僕等はお別れ
それぞれの帰り道を行く 誰もが違う道程だから

お互い小指結び 決して破れない 僕等の約束
それぞれなのに同じ想い 誰もが違う人間なのに

誰だって 知ってるよ

僕等は違う 皆 一人

誰だって 知ってるよ

違うから 人を求める事を

届く事しか考えなくて 一方通行で君に伝えたくて
こんなに震えるこの心が 暴れだして止まらない

涙流した今日 誰もいない 部屋の中で

「どうせ僕は一人だ」なんて 誰もがそう思っているのに

茜色の空の下 君が泣いて 僕も泣いて

ほらね 涙流していたって 一人だなんて事はない

誰だって 持ってるよ

実物にない 夢 くらい

誰だって 持ってるよ

臆病だから 人の優しさを

言い訳ばかり必死になって 一生素直になれそうになくて
それでも僕等は通じ合う 皆 同じ気持ちだから

さようなら 毎日言っても悲しいよ
さようなら 最後に言うなら「ありがとう」
さようなら 元気にいるよ 今も生きているよ
さようなら やっぱり 別れは「さようなら」
それでも 気持ちは「ありがとう」

誰だって 知ってるよ
僕等は違う でも 一人じゃない
誰だって 知ってるよ
違うから 人を愛する事を

あかね色に染まった空 同じ空を見ているだろうな
だから 皆 一人じゃない 同じ物を知ってるから
あかね色に染まった空 君も同じの见ているだろうな
離れ離れでも 一人じゃない 同じ空の下だから

だから 人は人を必要とする
全てがみんな 必要だから

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7827e/>

約束の唄～茜色の歌詞～

2010年10月28日07時30分発行